

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2185

日本語科学

Japanese Linguistics

21

2007年 4 月

April, 2007

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

Tokyo, Japan

日本語科学 21

Japanese Linguistics 21

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

2007年 4 月

April, 2007

研究論文 Articles

『[漢語／文章] 熟字早引』の〈国語〉をめぐって

Relating to the *Jukuji Hayabiki*

今野 真二 KONNO Shinji

5

医療コミュニケーション適切化のための医学・医療用語の課題

— 世論調査にみる国民の期待とそれに答える医師の工夫 —

Issues in medical and health care terminologies: For optimum medical communication

吉岡 泰夫 YOSHIOKA Yasuo

23

相澤 正夫 AIZAWA Masao

朝日 祥之 ASAHI Yoshiyuki

群馬県藤岡市方言における「養蚕語彙」の比喩表現

The figurative uses of sericultural terminology in the dialect of Fujioka City, Gunma Prefecture, Japan

新井 小枝子 ARAI Saeko

43

高知方言のアスペクト形式と時間性に基づく動詞分類

Yû-form and *chû*-form in Kochi dialect and classification of verbs

畠山 真一 HATAKEYAMA Shin-ichi

65

調査報告 Report

アメリカ人は和製英語をどのくらい理解できるか

— 英語母語話者の和製英語の知識と意味推測に関する調査 —

To what extent do Americans understand Japanized English loanwords?:

Investigating knowledge and inference of loanword meanings

柴崎 秀子 SHIBASAKI Hideko 89

玉岡 賀津雄 TAMAOKA Katsuo

高取 由紀 TAKATORI Yuki

研究ノート Note

全文検索システム『ひまわり』を利用した言語資料検索環境の構築手法

A method of constructing a retrieval environment for language resources using
full-text retrieval system “Himawari”

山口 昌也 YAMAGUCHI Masaya 111

研究所報告 NIJLA Report

方言分布の解明に向けて— 原点に帰る言語地理学 —

For the analysis of the dialectological distributions: Starting over of geolinguistics

大西 拓一郎 ONISHI Takuichiro 125

.....

世界の言語研究所 (21) パリ・ソルボンヌ大学 理論・応用言語学研究所 (CELTA)

— CASK プロジェクト — (フランス)

アンドレ・ヴロダルチック 143

編集委員会からのお知らせ 次号予告：特集「コーパス日本語学の射程」

既刊内容 (第18号～第20号)

『日本語科学』投稿規程・執筆要領

編集後記

次号予告：特集「コーパス日本語学の射程」

次号の『日本語科学』第22号（2007年10月発行）では、「コーパス日本語学の射程」と題した特集を掲載いたします。

前号の『日本語科学』第20号で特集の趣旨を掲載し、論文を募集したところ、国内外から21件の応募をいただきました。多数の御投稿，どうもありがとうございました。

現在，投稿論文の審査・編集の作業を進めているところです。どうぞ御期待ください。

参考までに，特集「コーパス日本語学の射程」の趣旨（前号に掲載したもの）を，一部抜粋して掲載しておきます。

●特集「コーパス日本語学の射程」の趣旨

近年，世界各地でコーパスの開発が進むとともに，コーパスに基づく言語研究，スタイル分析，辞書の編纂など，様々な応用が試みられてきています。コーパスに基づく言語研究の可能性は，今後も更に広がっていくでしょう。

翻って日本国内に目を向けてみると，新聞記事テキストや著作権の消滅した比較的古い文学作品などがコーパスとして使われているのが現状です。どのようなコーパスをどのように使えばどのような研究ができるのか，ということ自体，これから議論されるべきテーマの一つと言えるでしょう。

本特集では，コーパスに基づく日本語研究，すなわち「コーパス日本語学」が，今後目指すべき方向について提起する論文，そしてその萌芽的な実践を行った論文を掲載します。コーパスと日本語研究のかかわりについて，様々な立場から論じた論文を集めることにより，今後のコーパス日本語学の振興と発展に寄与することを目指します。

『日本語科学』特集編集委員 丸山岳彦（国立国語研究所）

柏野和佳子（国立国語研究所）

田野村忠温（大阪外国語大学）

既刊内容（第18～20号）

【第18号】（2005年10月）

- 名詞述語文，形容動詞述語文，ウナギ文 丹羽 哲也
- 「話者の移行期」に現れるあいづち ―日本語，台湾の「国語」と台湾語を中心に― 陳 姿 菁
- 断わりとして用いられた日韓両言語の「中途終了文」―ポライトネスの観点から― 元 智 恩
- 明治初期以降の哲学と論理学の新出語 朱 京 偉
- 日韓の社会人における第三者敬語の対照研究 ―アンケート調査の結果から― 金 順 任
- 海外における日本語学習者の学習環境と学習手段 小河原義朗／金田智子／笠井淳子
- 世界の言語研究所（18）スロベニアの言語研究所と言語資源（スロベニア） 茂木俊伸／アンドレイ・ベケシュ

【第19号】（2006年4月）

- 敬語動詞における日本語学習者の中間言語の量的研究
- ―中国人および韓国人学習者と日本語母語話者との比較から― 宮田 剛章
- 新潟県南部方言のオ段長音開合現象
- ―老年男・女各1名の音響的実相及び発音口形の比較― 大橋勝男／大橋純一／河内秀樹
- 指示表現の情意 ―語り手の視点ストラテジーとして― 泉子・K・メイナード
- 近代関西語の順接仮定表現 ―ナラからタラへの交代をめぐる― 矢島 正浩
- 宇和島方言アクセントについて 清水 誠治
- コア図式を用いた多義動詞「とる」の認知意味論的説明 松田 文子
- シソーラスの可能性 山 崎 誠
- 『分類語彙表』の特徴と位置付け 柏野和佳子
- 世界の言語研究所（19）言語資料コンソーシアム（アメリカ合衆国） 黒橋 禎夫

【第20号】（2006年10月）

- 台湾残存日本語にみられる否定辞「ナイ」と「ン」 ―花蓮県をフィールドに― 簡 月 真
- 格助詞「へ」で終わる広告コピーにおける「へ」の機能
- ―格助詞「に」との互換性という観点から― 李 欣 怡
- 三者面接調査における回答者間の相互作用 ―同性の友人同士の場合― 熊谷智子／木谷直之
- 非漢字圏日本語学習者の漢字学習意識に関する研究 ―スリランカの学習者を対象として―
- ガヤトゥリ ハットトワーガマゲ
- 国立国語研究所編『太陽コーパス 雑誌『太陽』日本語データベース』、『雑誌『太陽』による確
定期現代語の研究』『太陽コーパス』研究論文集』 岡島 昭浩
- 山形県鶴岡市における「場面差調査」 尾崎 喜光
- 世界の言語研究所（20）言語資源協会（GSK）（日本） 橋田浩一／田中穂積

『日本語科学』投稿規程・執筆要領

制 定 平成9年4月

最終改正 平成18年7月10日

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、並びに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広範な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回（4月、10月）発行する。（投稿の受付は随時）

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類、分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。なお、原則として対象とする時代は明治中期以降とする。投稿原稿の種類と分量（タイトル、氏名、キーワード、要旨、概要を含む）は以下のとおりとする。

研究論文：オリジナルな知見の提供を含む学術論文。（20ページ程度）

調査報告：調査結果の記述を主とする報告。（20ページ程度）

研究ノート：問題提起、事例報告、中間報告などの小論文。（10ページ程度）

各投稿原稿は、CD-ROMの形でデータやプログラム等を添付することができる。

このほか、所内外の研究者に**展望論文**（研究動向、現時点での課題、将来の展望などについて論じた論文、20ページ程度）、**書評論文**（20ページ程度）等の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語又は英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字（簡体字・繁体字）、ハングル、キリル文字、ギリシャ文字を用いることは可（それ以外の文字はローマ字化）。
- 2) 原稿はA4判横書き、43字×36行で作成する。（編集委員会が認めた場合に限り縦書きも可。A4判縦書き、30字×21行×2段。）英文の場合はマージン上下2.5cm、左右2cm（フォント12ポイント、1.5スペース）を目安に原稿を作成する。ページ下中央にページ数を入れる。
- 3) 研究論文、調査報告及び研究ノートには、キーワード（五つ以内）、要旨（問題と結論の要約、10行程度）、概要（議論全体の概要、英文は250語以内、邦文は20行以内）を付ける。邦文論文の場合、要旨・キーワードは日本語、概要は英語を用いる（概要には英語のキーワードも付ける）。英文論文の場合、要旨・キーワードは英語、概要は日本語を用いる（概要には日本語のキーワードも付ける）。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任において行う。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献は、邦文・欧文・その他の文字の順で字種ごとにまとめた上で、辞書順に配列する。

文献一覧の書式は以下のとおり。

【書式】

著者名（発表年）「論文タイトル」『書名／雑誌名』巻号（雑誌の場合）、ページ、発行所

【例】

井上優・生越直樹 (1997) 「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会

宮島達夫 (1972) 『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz(ed.) *Questions*, 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions, *Language* 51, 1-31.

- 5) 付属CD-ROMにデータ等を添付する場合は、容量やデータの形式等について、あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領に基づき審査する。編集委員会は、査読結果に基づいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に知らせず、査読者の氏名も著者に知らせない。

査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介して行う。

7. 投稿の手続き

投稿は随時受け付ける。投稿の際には、以下の(1)と(2)とを委員会に送付すること。なお、投稿原稿は原則として返却しない。

- (1) 原稿4部（著者名の入ったもの2部、無記名のもの2部）

- (2) 以下の事項を記した「別紙」。

なお、共著の場合、1)と2)については共著者全員の情報、3)と4)については、代表者の情報を記載すること。

- 1) 著者の氏名（読み仮名）

- 2) 所属・職名

- 3) 大学以降の学歴

※ 卒業・修了・退学後10年未満の場合のみ必要。

- 4) 連絡先（住所・電話番号・E-mail）

- 5) 原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）

8. 採用決定後の修正

採用決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採用決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

- 1) 他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理、及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は、著者の責任において行うこと。

- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

- 3) 掲載された論文等の要旨は、*Linguistic Abstracts*（アリゾナ州立大学編集）に英文で掲載

される。

投稿原稿送付先

〒190-8561 東京都立川市緑町3591-2

独立行政法人国立国語研究所 『日本語科学』編集委員会

投稿・編集に関する問い合わせ先

独立行政法人国立国語研究所 『日本語科学』編集委員会

電 話：042-540-4300(代)

F A X：042-540-4333(代) ※必ず『日本語科学』編集委員会あて明記のこと。

E-mail：kagaku@kokken.go.jp ※添付ファイル付きのメールは受信できません。

Instructions for Submitting Manuscripts to *Japanese Linguistics*

1. Purpose of the Journal

The purpose of this journal is to contribute to the development of a variety of different fields in the study of Japanese. To this end, it publishes the results of research done at The National Institute for Japanese Language (formerly The National Language Research Institute), as well as research conducted elsewhere that is deemed relevant to the interests of the Institute.

2. Time of Publication

The journal is published twice a year in April and October. Manuscripts can be submitted anytime and are processed throughout the year.

3. Qualifications for Submission

No special qualifications are required of authors, but all manuscripts must conform to the goals of the journal.

4. Content, Categories and Length of Manuscripts

All manuscripts must be previously unpublished. As a rule, their focus should be on the time period after mid-Meiji. The categories and approximate lengths of manuscripts (including title, name, keywords, abstract, and summary) are as follows:

- 1) **Articles:** Research papers presenting original ideas (about 20 pages).
- 2) **Reports:** Descriptive reports of research, surveys and questionnaires (about 20 pages).
- 3) **Notes:** Short papers that raise questions, case studies, and interim reports of ongoing research (about 10 pages).

Manuscripts may also be accompanied by a CD-ROM of data and programs that will supplement the journal.

The journal may also ask researchers outside the Institute to write prospect papers (i.e., papers on trends in research, current research issues, or future research prospects) (about 20 pages), or book reviews (about 20 pages).

5. Style

- 1) Manuscripts should be written in Japanese or English. Chinese characters (simplified or traditional), Hangul, Cyrillic and Greek characters or letters can also be used in examples. All other orthographic symbols should be transcribed in the Latin alphabet.
- 2) Japanese manuscripts should be submitted in horizontal format with 43 characters x 36 lines on A 4 (or 8.5" x 11") paper. (Manuscripts can be submitted in vertical format only with the approval of the editorial committee. Such manuscripts should be prepared with 30 characters x 21 lines in two sections). English manuscripts should be prepared on A 4 (or 8.5" x 11") paper and typed on one side only with 2.5 cm margins at the top and bottom and 2 cm margins on the left and right. 12 pt. typeface should be used with line spacing set at 1.5 lines. Each page should have the page number as a footer.

- 3) All manuscripts should have Japanese and English titles. **Articles, Reports and Notes** should contain the following elements:

Japanese articles, reports and notes:

- a) Keywords in Japanese (up to 5 words) and English equivalents
- b) Abstract in Japanese (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body
- d) Summary in English of the overall argument (about 250 words)

English articles, reports and notes:

- a) Keywords in English (up to 5 words) and Japanese equivalents
- b) Abstract in English (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body
- d) Summary in Japanese of the overall argument (about 20 lines)

For all manuscripts, it is the responsibility of the contributor to have the Japanese or English portion of his /her manuscript checked by an educated native speaker of the language.

- 4) Notes and references should be provided at the end of the manuscript.

All works referred to should be sorted by kind of orthography (Japanese first, followed by European language, and then others) and be listed in dictionary order in each language, as follows:

井上優・生越直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」

『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会

宮島達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions, In H. Hiz (ed.)

Questions, 87-105, Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions, *Language* 51, 1-31.

- 5) Contributors wishing to submit material for inclusion in a supplementary CD-ROM should contact the editorial committee to obtain their consent regarding the format and file-size.

6. Review Procedures

Manuscripts will be read anonymously by two referees appointed by the editorial committee: all manuscripts will be reviewed according to the journal's guidelines. Committee will determine whether a manuscripts is to be published, based upon the results of the referees' reports. All contact between referees and authors (regarding referees' questions, comments and suggestions and the author's response) will be carried out via the editorial committee.

7. Procedures for Manuscript Submission

Manuscripts are accepted and processed at any time. All manuscripts sent to the editorial committee should be accompanied by an information sheet that includes: 1) author's name (with Katakana reading), 2) affiliation and title, 3) university level education and higher (if within the last 10 years) 4) contact address, telephone number, and e-mail address. (In case of a co-authored work, only the primary author's address, telephone number, and e-mail address should be included.), and 5) category of manuscript (article, report or notes). Four copies of

the manuscript (two with author's name and two without author's name) should be sent together. As a rule, manuscripts will not be returned to authors.

8. Corrections and Revisions of Manuscripts

After the editorial committee makes a decision to publish a manuscript, they may request that the author make changes to the style and format. The committee may also make minor format changes at its discretion. Once the decision to publish a manuscript is made, the author will not be allowed to make any further changes to his/her manuscript, except where revisions are requested by referees and the editorial committee.

9. Copyright

- 1) Authors are responsible for obtaining written consent from research subjects, as well as permission to use any copyrighted material or databases as a source in their manuscripts.
 - 2) The copyright for all papers published in the journal belongs to The National Institute for Japanese Language (according to the Copyright Law of Japan, including Articles 27 and 28).
 - 3) Summaries of published articles appear in *Linguistic Abstracts* (Arizona State University) in English.
-

Manuscripts should be submitted to:

Editorial Committee, Japanese Linguistics
The National Institute for Japanese Language
3591-2 Midori-chō, Tachikawa-shi, Tōkyō 190-8561 JAPAN

For further information, contact the editorial committee at the above address
or send a fax or e-mail to:

FAX: 042-540-4333

E-mail: kagaku @ kokken.go.jp

編集後記

第21号には、研究論文4編、調査報告1編、研究ノート1編、そして研究所報告1編がおさめられています。「世界の言語研究所」は、博報日本語海外研究者招へいプログラムで国立国語研究所に滞在されたアンドレ・ヴロダルチック氏にお願いし、パリ・ソルボンヌ大学理論・応用言語学研究所のプロジェクトについて御紹介いただきました。今後、国立国語研究所では、同招へいプログラムを通じて毎年4～5名の日本語研究者を世界各地からお迎えします。そうした方々から、世界の言語研究、日本語研究についての情報をお寄せいただき、『日本語科学』の紙面にも反映させていきたいと思っています。

次号の特集「コーパス日本語学の射程」の投稿募集（1月末日締切）には、21本という多数の御投稿をいただき、現在、査読が進んでいます。特集編集委員には、所外から大阪外国語大学の田野村忠温氏をお迎えし、所内の特集担当の丸山岳彦・柏野和佳子両委員と3人体制で編集作業を進めています。巻頭論文、寄稿論文、そして様々な分野からの投稿論文で構成される盛り沢山な特集になる予定です。どうぞ御期待ください。

（熊谷 智子）

編集委員

熊谷 智子（委員長、国立国語研究所）

井上 文子（国立国語研究所）

宇佐美 洋（国立国語研究所）

柏野 和佳子（国立国語研究所）

鈴木 美保子（国立国語研究所）

田野村 忠温（特集編集委員、大阪外国語大学）

新野 直哉（国立国語研究所）

丸山 岳彦（国立国語研究所）

『日本語科学』21

2007年4月25日 発行

編 集 国立国語研究所

『日本語科学』編集委員会

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

TEL. 042-540-4300(代表)

発 行 国 書 刊 行 会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL. 03-5970-7421 FAX. 03-5970-7427

印 刷 エーヴィスシステムズ

製 本 村上製本所

（平成19-1）